

韓国環境部プレスリリース

以下、機械翻訳などによる仮訳

江原道鉄原郡遠南面の民間制限線内で発見された野生いのししの死体からアフリカ豚コレラウイルス検出 (2019-10-16)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=20&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1065170&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

【本文】環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は10月16日、江原道鉄原郡遠南面の民間制限線内で発見された野生いのししの死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと明らかにした。

ウイルスが検出された野生いのししの死体は10月15日午後2時頃、民間制限線内で部隊員により発見された。10月12日ウイルスが検出された地点から約1.4km程度離れた場所であった。

鉄原郡はこの日午後4時30分頃試料採取後軍部隊の協力を受けて標準の行動指針により死体を科学院へ移送し、10月16日午前10時ごろアフリカ豚コレラ陽性となった。

※試料採取および死体の埋却後、消毒、周辺防疫作業実施

京畿道漣川郡漣川邑瓦草里山奥墓地周辺で見つかったイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出（10例目）（2019-10-20）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1066365&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は10月18日、京畿道漣川郡漣川邑瓦草里 615 番地山中墓地の周辺で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと発表した。

10月18日午後5時20分頃、イノシシへい死体の発見通報電話受付後、漣川郡が出動したが、現場が山中であり午後6時20分過ぎの夜間であったため現場確認が不可能、翌日の19日午前に再出動して野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針に基づき遺体を埋めた後、試料を国立環境科学院に移送した。

※試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

国立環境科学院は10月19日午後8時頃、分析に入り10月20日午後5時にアフリカ豚コレラウイルスを確認した。これで現在まで確認されたアフリカ豚コレラは計10件に増えた。チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今回検出された地点は、民統線から約3km前後の南に位置した」として「周辺地域に感染した追加のへい死体があるか調査を強化して速やかに1次鉄条網を設置する」と述べた。

京畿道漣川郡長南面伴程里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出（11 例目）（2019-10-21）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1066520&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は 10 月 20 日、京畿道漣川郡長南面伴程里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと発表した。

10 月 20 日午前 11 時 20 分頃、軍部隊員が、民統線内の別の所でイノシシへい死体を発見し、漣川郡に申告した。漣川郡では野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針に基づき死体を埋却した後、試料を国立環境科学院に移送した。

※試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

国立環境科学院は 10 月 20 日午後 8 時頃、分析に入り 10 月 21 日午前 3 時にアフリカ豚コレラウイルスと診断した。これで現在まで確認されたアフリカ豚コレラは計 11 件に増えた。チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「10 月 15 日、漣川郡長南面板浮里のへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出された地点とは約 4.8km 離れており、同じ民統線内で発見された」として、「今回の検出により標準行動指針に基づき従来定めた集中狩猟地域と危険地域が一部変更されるために迅速に追加的に鉄条網を設置し、周辺地域の土壌汚染とへい死体調査を強化する」と述べた。

（以上）